豊臣秀吉の「太閤検地」と「刀狩」

TOSS 長崎　中学・にしそのぎサークル　　森　雄輔

「検地と刀狩」については、TOSS SANJO の小林義典氏の実践「豊臣秀吉」(TOSS ランド No1143315)をもとに作成した。なお、小林氏の実践には太閤検地や刀狩についての資料も掲載されてあるので、参考にされたい。

説明：絵を見せます。教科書にも同じ絵がのっています。

そう言って、教科書に掲載されてある「太閤検地」の絵を見せる。
なければ、小林氏の実践の中にある太閤検地の絵を示す。

指示：何の絵ですか。絵の近くにある説明文を四角で囲みなさい。

「検地」
(絵の説明文がなければ「何をしているところだと思いますか。」という発問でもよい。)

指示：検地は、さまざまな戦国大名が行っていましたが、特に豊臣秀吉が行った検地を「太閤検地」といいます。言ってごらんなさい。

「太閤検地」

指示：太閤検地では、どのようなことを調べましたか。教科書に４つあります。箇条書きでノートに書きなさい。

「全国の田畑の面積を調べる」
「土地のよしあしを調べる」
「収穫高を調べる」
「耕作者を調べる」

発問：全国の田畑の検地を終えるまで、何年くらいかかったと思いますか。

「５年」「２０年」など

説明：１０年かかったと言われています。君たちは今１３歳だから、今から全国の検地を始めると２３歳になるまでかかる、ということになります。
最終的に全国から集まった検地帳は７０００冊になったそうです。秀吉は、地方から検地の結果報告が届くと、食事中でもすぐに箸を置き、検地帳に見入ったと言われています。それほど、力を入れて検地を行ったのです。

指示：なぜ、このような大規模な検地を行ったのでしょうか。予想をノートに書いてごらんなさい。

「たくさん米を取りたかったから」
「すべての土地を知っておきたかったから」

説明：検地によって全国を治めやすくしたのですね。年貢の納められる量も安定します。また、農民には土地の所有権が認められました。
各地の大名は一定の土地の管理を秀吉から任され、そこから年貢を得る、というシステムが出来上がったのです。これにより、地方の大名が独立することを防ぎ、天下が統一されました。

指示：太閤検地と同じころ、秀吉はもう１つ、ある命令を出しました。教科書から漢字２文字で探します。

「刀狩」

指示：「刀狩」とは何ですか。教科書から説明文を探して、ノートにそのまま書きなさい。

「農民や寺社から刀や弓、やり、鉄砲などの武器を取り上げる。」

指示：なぜ「刀狩」が行われたのでしょうか。教科書から説明文を探して、ノートにそのまま書きなさい。最後は「ため」で終わります。

「武力による農民の一揆を防ぎ、耕作に専念させるため。」

説明：それまでは、ずっと農民や町人も刀や脇差（小刀）を持っていました。秀吉は「刀狩」により、武士以外の身分の人が刀や脇差を持つことを止めさせます。
戦闘は武士が行い、農民は農業に携わる、という風に役割をはっきりと区別させたのですね。

指示：太閤検地と刀狩の結果、武士と農民との身分の区別がはっきりすることになりました。このことを、教科書から漢字４文字で探します。

「兵農分離」

説明：こうして、武士、農民などの身分に応じた職業によって生活するという、社会のしくみが固まっていったのです。